

真志会 ・ 公明党行政視察

2025年（令和7年）11月10日（月）～13日（木）

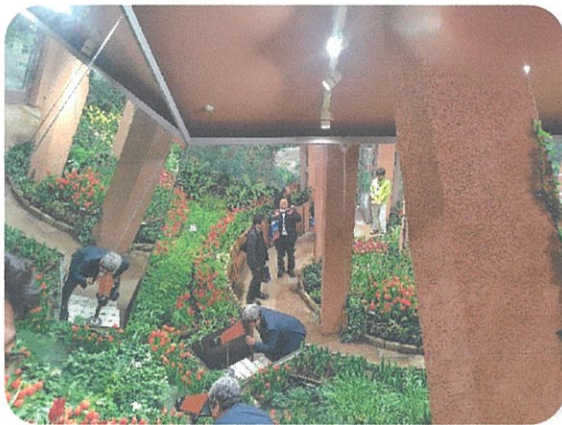
- 11月10日(月) ① 富山県砺波市・チューリップ四季彩館
- 11月11日(火) ② 富山県富山市・イタイタイ病資料館
- 11月11日(火) ③ 富山県高岡市・多機能地域自治の取組について
- 11月12日(水) ④ 富山県南砺市・棟方志功記念館「愛染苑」
- 11月12日(水) ⑤ 富山県南砺市・エコビレッジ構想について



11月10日

① 富山県砺波市・チューリップ四季彩館

世界で唯一、チューリップが一年中咲く花園



パレットガーデン

太陽と水に恵まれた砺波の自然と花を愛する人の手が生んだものである。

満開のチューリップいつでも出迎えてくれる。

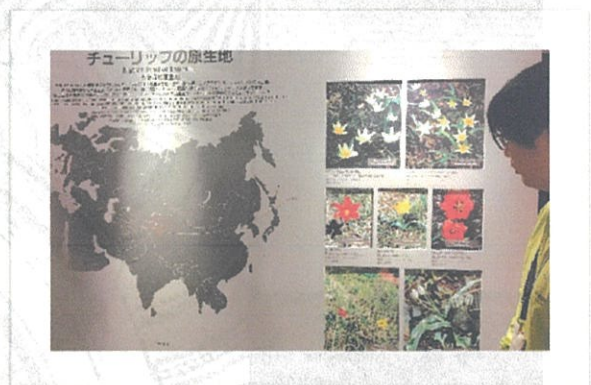
四季彩館の技術で一年中いつでも花を咲かせることができる。

チューリップを愛する人の歴史・文化を体感できる施設であった。



チューリップパレス

チューリップは全て、富山県オリジナル品種



チューリップの伝来



研修状況

② 富山県富山市・イタイイタイ病資料館



神通川の豊かな自然の恵みを活かした農業やアユ魚が盛んであった。

明治のなかごろから、神通川周辺だけに、川が白くにがり、イネの育ちが悪くなる。原因不明！

大正時代に原因は、神通川上流の上岡鉱山からの鉱毒だと、国と県に訴え、改善を求める。

農業や漁業に被害・不思議な病気に苦しむ人たちが現れる。その病気は、はじめは腰や肩、ひざに、さらに病気が進むと、前進のさまざまな部分の痛み、躓くだけで骨折してしまう。

病気は「イタイイタイ病」と命名

1955年（昭和30年）初めて新聞で報道。

原因不明で治らない病気となった。

原因究明、健康とくらしを守る動き

国・県・医師・研究者が調査を開始。

神通川上流の神岡鉱山のカドミウムが原因と発表がある。神通川流域の住民は、三井金属工業に対して、1968年（昭和43年）に裁判を起こす。

イタイイタイ病の原因はカドミウムとされ、住民が裁判に勝利！

裁判は1971年（昭和46年）、公害病としては日本ではじめて、被害者である住民が勝利した。

認定のための4つの条件

- ① カドミウムに汚染された地域に住んでいて、カドミウムを含む食物や水を飲んだ経験があること。
- ② 生まれつきでなく、大人になってから症状がみられること。
- ③ 尿細管障害がみられること。
- ④ 骨粗しょう症をとともう骨軟化症がみられること。

現在は清らかで安全な流れを取り戻し、自然環境を守っている。安全な環境づくりに頑張りたい。また、環境と健康を大切にすライフスタイルの確立や地域づくりに取り組む方向性は水俣市も再度、取り組まなければならないと深く感じた。

③ 富山県高岡市・多機能地域自治の取組について



地域の暮らしを支えること

「地域」と「行政」が協力

【高岡市の自治会】

- ・ 605の単位自治会（町内会）
- ・ 36の連合自治会

【住民の暮らしを支える地域活動】

- ・ 通学時の見守り・生活道路の除雪・除草
- ・ 防犯パトロール・資源回収・町内清掃
- ・ 高齢者の見守り・健康増進

多機能地域自治

○地域の団体が結集し、地域活動の効率化、自ら地域課題を解決していく仕組み。

設立までの流れ

機運の醸成 → 地域実態の把握・座談会・
設立準備委員会・設立活動開始

- ・ 中学生以上を対象に住民アンケート

設立までの過程で地域が苦勞したこと

- ・ 座談会の参加者集め（特に若者）
- ・ 棚卸調査票の回収（地域の実態を棚卸）
- ・ 総論賛成、各論反対で解決策が出てこない

地域、自治会の実情

担い手不足が顕在化

- 地域で活動する団体の解散がとまらない
婦人会、老人クラブ、子ども会、青年団
- 自治会の加入率が減少
・ 若者が参画しない・高齢者の退会が増加
高岡市 77%（10年で約10%減少）

- 少子化社会・人口急減

地域活動が維持できない

- 地域によって人口、年齢構成、自然環境など
状況に差がある。課題の優先順位が異なる。
行政による一律的な対応が困難。

高岡市多機能地域自治支援補助金

課題解決事業として、地域づくり協議会に活動支援として、世帯数により、100万から300万の補助を実施している。

水俣市においても少子高齢化で、各区自治体において問題がある。今回の研修で各地域の実情（棚卸）を行い、正確なアドバイスとそれに対する支援が重要であると思う。緻密な計画と行政の取組姿勢が水俣市の活力ある街づくりができると感じた。これからも水俣市活性化と安心安全な水俣市を目指し、頑張っまいます。

④ 棟方志功記念館「愛染苑」



棟方志功略年譜

- 昭和二十年 四十二歳
福光町法林寺に疎開、住居を獨飛閣雜華堂とよぶ。この間、東町鍛冶家の一室を借り、雜華堂絵所の小札を掲げ画室とする。城端別院にて棟方志功画業展覧をひらく。荒町舟岡家を借り移り住む。
- 昭和二十一年 四十三歳
第一回日展に愛染品板画巻を出品。
- 昭和二十二年 四十四歳
北陸夕刊に綾錦の挿絵を連載。高岡市にて第一回日本芸業院展を主宰してひらく。
- 昭和二十三年 四十五歳
板画作品集愛染品を刊行。第二回日展に鐘添頌を出品。岡田賞を受賞。「夢遊の鯉魚」を刊行。岡田賞を受賞。栄町に住居を建て移り、鯉雨画斎また「愛染苑」ともよぶ。
- 昭和二十四年 四十六歳
火の類い板画巻を制作。第二十一回国画会展に鐘添頌の内六桌出品。福井県立教授棟方志功小品板画展をひらく。高岡市にて第二回日本芸業院展覧会をひらく。善知鳥を刊行。
- 昭和二十五年 四十七歳
板絵板画欄「鴨着川板画巻」を制作。東京空襲により板木焼失の釈迦十大弟子中、文珠、普賢両菩薩を複製する。猫の足向集、眼定本、鴨着川を刊行。板愛染を刊行。光徳寺の梵鐘のための原板画を制作。国画会の推薦新会員となる。第二十二回国画会展に光徳寺梵鐘抜萃外に四桌出品。福光で棟方志功色紙展覧をひらく。鯉雨を刊行。
- 昭和二十六年 四十八歳
棟方志功板画集、刊行。北陸夕刊の特派員として天皇拜従記を書く。
- 昭和二十七年 四十九歳
第二十三回国画会展に女人觀世音、音外七美出品。女人觀世音をモリス・スミス・ルガノ国際版画展に出品優秀賞をうける。
- 昭和二十八年 五十歳
楯形品を完成、刊行。第二十四回国画会展に道祖土頌を出品。昭和二十六年 四十八歳
胸形変板画欄、刊行。第二十五回国画会展に運命板画欄を出品。同作品を翌年五月フランスのサロン・ド・メイに招待出品する。
- 昭和二十九年 五十一歳
ブラジルのサンパウロ市の第一回国際美術展に日本代表として推薦出品する。東京都杉並区上荻に居を移す。
- 昭和三十年 五十二歳
文化勲章を授与される。肝臓ガンのため永眠。

⑤ 富山県南砺市 エコビレッジ構想について



南砺市エコビレッジ構想（2013年3月策定）

【基本理念】 小さな循環による地域デザイン

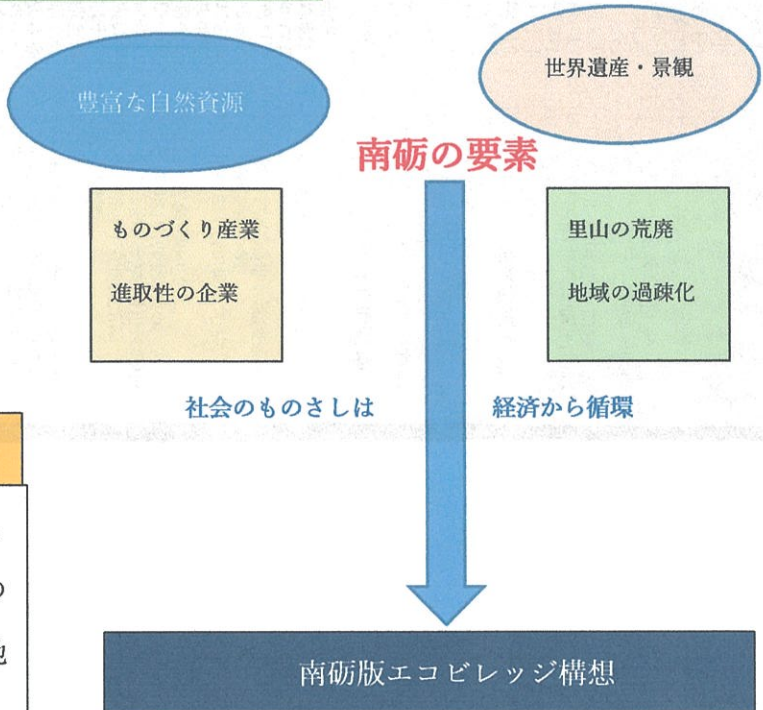
【基本方針】 便利な生活に懐かしい生活をミックス

1. 再生可能地域内エネルギーの自給と技術の育成
2. 農林業の再生と商工観光業との連携
3. 健康医療・介護福祉の充実と連携
4. 未来を創る教育・次世代の育成
5. ソーシャルビジネスやコミュニティビジネスによるエコビレッジ事業の推進
6. 森や里山の活用と懐かしい暮らし方の再評価による集落の活性化



南砺で取り組むエコビレッジ
 地域の資源から付加価値を産み、市内循環を広げ、地域全体の自立度を高めるまちづくり

モデル地区の設定
 再生可能エネルギーの開発が見込め、観光客等外部からの付加価値導入のポテンシャルを有した桜が池周辺地域を簿出る地区に設定。



南砺市再生可能エネルギー促進事業

- ・木質ペレットボイラー・薪ボイラーの公共施設への整備
- ・木質ペレット燃料製造事業の支援（工場の整備等）
- ・家庭や事業所への木質ストーブ普及支援

- 市内から木材 2000t を調達し、木質燃料を製造・販売。（木質ペレット燃料を年間約 1200t、薪を年間 720t 製造する計画）
- エネルギー自給率を高めることにより、年間 1 億 5400 万円余りの経済循環効果が出ると試算している。
- 公共施設からの二酸化炭素排出量の削減と地域でのエネルギー産業の創出による地産地消を目的として整備。年間約 1400t の CO2 削減を見込む。
- 太陽光発電設備も順次整備しており、電力と燃料が地域で確保され、災害時に避難所として自立した施設運営ができる体制構築も進めている。
- 市内に再生可能エネルギー（木質バイオマス）の普及を目指し、一般家庭や事業所へ設備の導入を促進するため、ストーブ導入経費への補助制度に取り組む。木質ペレットストーブや薪ストーブ、バイオマスボイラー等を対象とする。
 - ・補助率 費用の 2 分の 1
 - ・補助金上限額 20 万円

地域資源（ひと・モノ・こと）と空き家を地域の居場所として、地域のきずな、つながりを大切にしている。また、交流と循環が生まれ、地域の活性化となっている。

南砺市は、若年女性人口減少率が改善したものの、消滅可能性自治体に位置付けられていたが、若年女性人口減少率が 10%ポイント未満改善された。

地域づくり・人づくり・機運仕組みづくり・ネットワークづくりで農と食を地域ぐるみで魅力アップに「オーガニックビレッジ宣言」を行い、付加価値の高い有機農業での収入増・耕作放棄地の発生防止・若い新規就農者の受け入れに挑戦し、有機酒米日本酒の新たなブランド化を目指している。地域発展は挑戦・挑戦・挑戦の連続が必要だ！今こそ地域ぐるみの棚卸で地域の問題点を明らかにして取り組んでいくことが大事だと思った。

